



たてやま

おらがんまっち

2017.2 No.33

南総祭礼研究会



館山市館山地区

あおやぎ

青柳

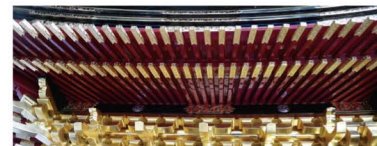
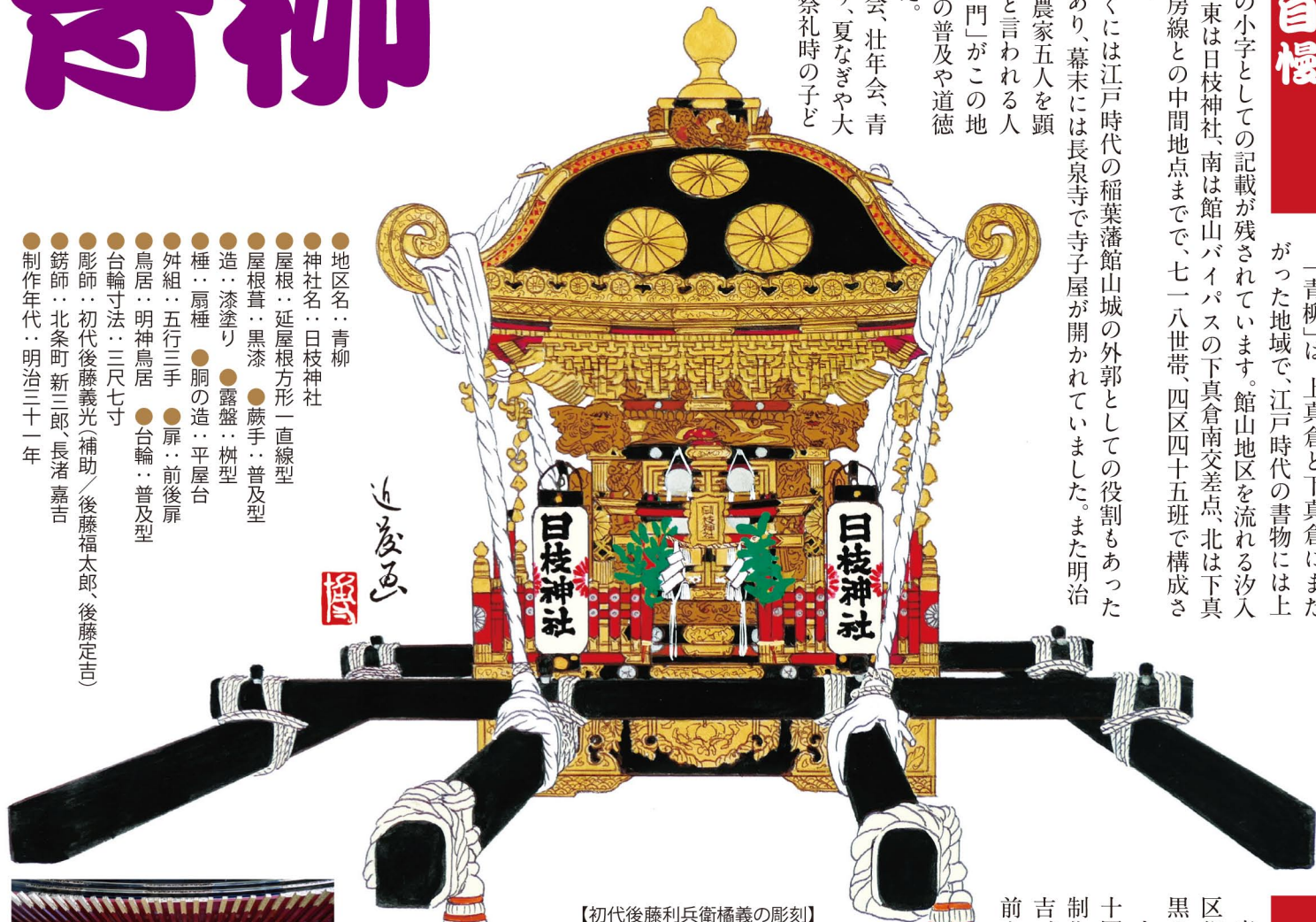
地域の自慢

「青柳」は、上真倉と下真倉にまたがった地域で、江戸時代の書物には上真倉村と下真倉村の大字としての記載が残されています。館山地区を流れる汐入川の東側に位置し、東は日枝神社、南は館山バイパスの下真倉南交差点、北は下真倉交差点とJR内房線との中間地点までで、七一八世帯、四区四十五班で構成された広い地域です。

青柳区民館の近くには江戸時代の稲葉藩館山城の外郭としての役割もあつた法蓮寺と長泉寺があり、幕末には長泉寺で寺子屋が開かれていました。また明治時代、安房郡の老篤農家五人を顕彰した「安房五郎」と言われる人の一人「秋山九右エ門」がこの地に住んでおり、養蚕の普及や道徳教育に尽力しました。

青柳区には長寿会、壮年会、青年団の各組織があり、夏なぎや大晦日のおたきあげ、祭礼時の子どもたちへの指導などをそれぞれの協力のもと行っています。また青年団の役員交代は「ひやり」と呼ばれ、例年三月第一土曜日に行われるという仕来りが守られています。

- 地区名…青柳
- 神社名…日枝神社
- 屋根…延屋根方形一直線型
- 屋根葺…黒漆
- 葺手…普及型
- 造…漆塗り
- 露盤…樹型
- 柱…扇柱
- 胴の造…平屋台
- 外組…五行三手
- 扉…前後扉
- 鳥居…明神鳥居
- 台輪…普及型
- 台輪寸法…三尺七寸
- 彫師…初代後藤義光(補助/後藤福太郎、後藤定吉)
- 鋳師…北条町新三郎、長渚嘉吉
- 制作年代…明治三十一年



神輿屋根裏の「扇垂木」

四方、四対の籠彫りを抱えた力の入った彫刻となっています。また、神輿屋根裏には「扇垂木」と呼ばれる木地師の技倆の見せ場でもある扇形を成す垂木が施され、前後扉は色鮮やかな漆塗りに輝く金の鋳金具と螺鈿細工が輝く、じつくりと見とれてしまうような美しい神輿です。屋根紋には、十五葉の菊紋が三つ施されており、旧山王社の威厳を伝えている自慢の神輿です。



金の鋳金具と螺鈿細工

【初代後藤利兵衛橋義の彫刻】



胴羽目(右)「楠木正成 桜井の別れ」



義光刻銘 胴羽目(左)「大田道灌と山吹の里」

自慢の神輿

青柳区日枝神社の神輿は八月一、二日に行われる館山地区祭礼に出祭します。大神輿と小神輿があり、ともに朱と黒の漆に染められた本体に見事な装飾が施されています。大神輿の彫刻は、安房の名工、初代後藤利兵衛橋義光八十四歳作で、義光次男の後藤福太郎と門人後藤定吉と共に制作されたものです。鋳師は北條町の新三郎と長渚の嘉吉、大工は館山町の吉田竹治郎で、現青柳の「石井材木店」前あたりを仕事場にしていたと伝えられています。

大神輿胴羽目右は、楠木正成・正行父子の「桜井の驛の別れ」の場面、胴羽目左には大田道灌「七重八重花は咲けども山吹の実の」